

理解推進事業

恒例の作品展が今年で 25 回目!
500 点を超える力作を一堂に展示

多摩市障がい者美術作品展が 11 月 29 日から 8 日間の日程で開催される。会場はパルテノン多摩の特別展示室。今年は絵画や絵手紙などのほか、25 周年の記念大会に合わせ、合作したスケールの大きな作品も展示される予定だ。開館時間は 10 時から夜 8 時。土日は夜 6 時まで。入場は無料。



◎日ごろからこつこつと描き進めた絵画やイラスト、躍動感あふれる書や作品など出品者の個性と発想力が詰まった作品ぞろい。会場は多摩センター駅からすぐ

資源化センター事業

身近なところで活用されるリサイクル品
酷暑の作業を支える日々の暮らし

9 月の作業実績は 12 日間でおよそ 60 時間。総選別量は前月比 2%減の約 90 トンだった。

個々の能力に合わせてローテーションを組み、1 日 3 ～ 4 名の障がい者が職員とともに月・木・金曜日に勤務。ここで力をつけ、いずれは一般企業で働けるようになりたいという希望を胸に日々の作業に取り組んでいる。



◎洗浄され再び出番を待つ『生きびん』

◎働き始めて 1 ～ 2 年の人から勤続 10 年を超えるベテランまでが同じラインで汗を流す

加盟団体からのお知らせ

アートひまわり
南野 3-15-1 5 階 ☎373-8455
NPO 法人あしたや共働企画
諏訪 5-6-3-101 ☎372-3690
NPO 法人暉望(色えんぴつの家・グループ TOMO)
永山 3-9 ☎372-3382
NPO 法人くぬぎ
永山 3-9 ☎375-2583
NPO 法人どんぐりパン
諏訪 5-6-3-105 ☎371-9236

サンクラブ多摩
南野 3-15-1 5 階 ☎356-0308
多摩市視覚障害者福祉協会
聖ヶ丘 1-28-26-103 ☎372-8051
NPO 法人多摩市身体障害者福祉協会
南野 3-15-1 3 階 ☎338-7009
多摩市手をつなぐ親の会
落川 1234-2 ☎371-8809
多摩市聴覚障害者協会
聖ヶ丘 1-19-5-201 FAX 372-0939

移動支援事業

絶好のお出かけシーズン到来!!
ヘルパー同行で出かけてみよう

◎東京湾を望む葛西臨海公園内の水族館では約 600 種を超える海の生物を見ることができる。国内最大級のペンギン展示場ではフンボルトペンギンなどの可愛い姿を陸上と水中から楽しめる



9 月の利用は 49 件。永山フェスティバルやカラオケ、映画など近隣への同行のほか、江戸川区の葛西臨海公園や、年間を通じていろいろな花が楽しめる足立区の舎人公園など遠出の利用もあった。また、映画「男はつらいよ」で有名な葛飾区の帝釈天から寅さん記念館をめぐる利用者への同行もあった。

精神障がい者の全国家族会が福岡で開催

生きづらさ解消に向け 2000 人が集結

精神障がい者家族会をはじめ、当事者と関係の支援者が一堂に会する全国精神保健福祉家族大会が 9 月 27 日と 28 日の 2 日間、福岡市の福岡国際会議場で開かれた。第 8 回となる今年は北海道から沖縄まで約 2000 名が参加。入院の長期化など厳しさの増す現状を踏まえ、今後の課題や組織としての取組みなどについて意見交換や講演などが行なわれた。

◎会場 1 階では専門書などの出版物や絵画の販売が行なわれた。また 2、3 階のロビーには全国の福祉作業所などの手づくり製品が並んだ



多摩市聴覚障害者協会

加盟団体紹介

聴覚障がい者を中心に 1980 年に設立。会員相互の親睦や内外での活動を通じた、聴覚障がいに対する理解・啓発活動を行なっている。会員、賛助会員はそれぞれ 60 名。35 周年となる今年には記念祝賀会を予定している。

昨年 6 月には多摩市議会で手話言語法意見書が採択された。来年 4 月には障害者差別解消法がスタートする。そうしたなか、手話を広め、障がいについて広く市民に理解を深めていくことが必要だ。



◎聴導犬の育成もこれからの課題

多摩市障害者福祉協会



つながりを力に、人と人を結ぶ
月刊多障協通信 ルリエ



発行：多摩市障害者福祉協会
多摩市南野 3-15-1 総合福祉センター 5 階
障害者団体共用室
☎042-356-0308 FAX042-311-2327
ホームページ http://tashokyo.com

多障協だより
街も人も秋色
おいしい実りの号

2015 年 10 月 25 日発行
2015 年第 2 巻第 10 号通巻 14 号

relier

目次

事業報告

障害者総合支援法施行 3 年目の見直しを考える	1
支援センターの一歩	2
障がい者就労支援センター	3
理解推進事業	4
移動支援事業	4
資源化センター事業	4
加盟団体からのお知らせ	4
加盟団体紹介	4
精神障がい者の全国家族会が福岡で開催	4

連載

NEWS	1
今月の花	1
プログラムカレンダー	2
今月のひと口解説	3
企業懇談会の報告	3

障害者総合支援法施行 3 年目の見直しを考える

障害者総合支援法の施行 3 年目に入り現在、国では、社会保障審議会・障害者部会が同法の見直し作業を進めている。年末を目途に取りまとめを行ない、来年 1 月の通常国会で法律案の審議が行なわれる予定だ。見直しの主な論点は、常時介護、移動支援、就労支援、支給決定のあり方、意思決定支援など 10 分野に及び、内容も多岐にわたっている。

だが、短時間で十分な論点の検討、整理が出来るのか、厳しい財政状況のなかで新しいニーズにどう応えるかなど懸念の声もあり課題も多い。

今回の見直しは利用者、関係事業所、自治体等に及ぼす影響が大きく、作業にあたっては当事者とその家族、関係者の意見が反映され、切れ目のない、きめ細かなサービス体系になるように注視していく必要がある。そうである。

NEWS ～ 「聴導犬」の存在にもっと気づこう!

聴導犬とは、耳の不自由な方の手助けをして働く「身体障害者補助犬」の種類。希望者の生活スタイルに合わせ、家の中で目覚まし時計やドアノック、電話など必要な生活音を知らせるほか、どこにでも同行して、各種警報機などに従い障がい者が災害や事故に巻き込まれる危険性を回避する役割を持っている。いま全国で希望者が約 1 万人以上と言われるが、聴導犬は 100 頭以下とまだまだ不足している状況だ。その育成や社会への受入れなど、聴導犬への理解を深めるため、まずはオレンジ色のケープを付けた犬を見たら、その存在に気付くことから始めたい。

今月の花

寒椿(かんづばき)



晩秋から冬にかけて生垣や道路と歩道の間で植込みなどで八重の濃い紅色の花を咲かせる寒椿。花びらがハラハラと散り、散っては咲く。通りがかる人の心を和ませる。その名の通り、冬の寒さも日陰もいとわず、明るく控え目に咲くその姿は、花言葉「謙虚」「愛嬌」にふさわしい。花も開花時期も山茶花(さざんか)とよく似ているため間違われることも多いが、雪のなかで健気に咲くその姿は格別に美しい。

4 ※の一歩の『HOT ほっと』は 2014 年 9 月号、本部で発行しておりました『多障協だより』は 2014 年 1 月号発行の冬号をもって最終号とさせていただきます、2014 年 9 月より 2 つを統合し『月刊 relier』としてリニューアル発行させていただきます。法人ともども今後ともよろしくお願いいたします

※『relier』は「つながり」や「結びつき」を表わすフランス語。人と人、地域と地域をつなげることで真の共生をめざしたいという意味を込め、リニューアルした広報誌にこの名前をつけました

今日のひとこと
 好きなアーティストのベストアルバムが9月に1位になってうれしい
 シルバーウィークに水族館に行ってきました
 AKB48の
 じゃんけん大会は自分まで緊張した
 ラグビー日本代表がワールドカップで南アフリカに勝利した。今後も応援したい

支援センター の一ま

コーラス

9月は18名が参加。8月からは歌集に新曲を追加した。参加者からのリクエスト曲は追加した曲に集中し、『3月9日』、『気球に乗ってどこまでも』、『WA になっておどろろ』などを歌った。

◎講師のアドバイスを真剣に聞き、音程を確認する参加者



投稿広場

◎0(オー)さん
ビーズ作品

9月相談件数

相談人数は前年同月とほぼ同様の延べ157名。プログラム参加は、前年同月比8%減の延べ110名となった。
 件数は343件。福祉サービスの契約や更新手続き、生活、医療に関する相談が全体の38%を占めた。方法別で見ると、自宅や通所先への訪問が前年同月比35%増の23件。新規登録は3名であった。

第2四半期報告

第2四半期の相談来所実績報告		
	延べ人数/件数	実人数
相談件数 (内訳)	2430件(31%減)	248名
利用者	1894名(37%減)	159名
関係機関	536名(8%増)	89名
フスヘス	767名(13%減)	128名
プログラム	355名(15%増)	72名

※()内は前年同期比

お知らせ

お楽しみ会開催

～コーラス発表会～

日程：11月28日(土)
 時間：13:30～15:00
 場所：の一ま(第4会議室)
 参加費：50円(お菓子代)
 参加希望の方は11月21日(土)までに連絡をください。詳細はポスター、または職員まで。
 ※プレゼント交換は行いません。

今月の映画

『バック・トゥ・ザ・フューチャー3』
 落雷でドクは1885年にタイムスリップ。1955年に取り残され、途方に暮れるマーティは、ドクが1885年に殺されてしまうと知って大慌て。マーティはドクを助けるため1885年へと向かうのだった。シリーズ3部作の完結編。

日	月	火	水	木	金	土
1 つむぎ 館まつり	2 休み	3 休み 文化の日	4 社会生活力アップ プログラム 14:00～15:30	5	6 イブニングタイム 17:45～19:30	7 利用者ミーティング 14:00～15:00
8 休み	9 休み	10	11	12	13 イブニングタイム 17:45～19:30	14 映画会 『バック・トゥ・ザ・フューチャー3』 13:30～15:30
15 休み	16 休み	17	18 スタッフ会議 10:00～12:00 社会生活力アップ プログラム 14:00～15:30	19	20 イブニングタイム 17:45～19:30	21
22 休み	23 休み 勤労感謝の日	24	25 リラックス体操 14:00～15:00	26	27 イブニングタイム 17:45～19:30	28 お楽しみ会 コーラス発表会 13:30～15:00
29 休み	30 休み	11月の社会生活力アッププログラムのお知らせ 健康センターの方に活動内容や健康に関する話を話してもらう予定です。もう1回は市の担当者マイナンバーについて解りやすく説明してもらう予定です。日程については職員にお問い合わせください。		行ってみたいところ募集中 外出プログラムを来年2月13日(土)に予定しています。希望者は12月5日(土)までに職員まで。 リラックス体操お休みのお知らせ 11月11日(水)はお休みです。		

障がい者就労支援センター

●実績報告●

7月～9月&9月の実績報告

第2四半期(7月～9月)の全体の支援件数は1145件と前年同期と比べて大きく変わらない。就職準備支援件数、職場開拓件数が前年同期の5割程度になっている。これは求職者の数が減ったことによるものだ。逆に増えているのが職場実習の支援である。前年同期の1.7倍となっている。実習を行なうことで企業と求職者のマッチングがより丁寧に行なえる。この積み重ねにより離職支援件数が前年度の3割、離職者数が前年同期の5割という実績につながっている。方法別の支援実績を見ると来所による支援が前年同期から5倍以上増えている。訪問による支援は前年同期の6割、これは訪問による支援が必要なケースが減り、来所による面談等の支援でのフォローが可能になった利用者や企業が増えたということが考えられる。

9月の相談件数は304件。新規就職者は2名。内1名は就労移行支援事業所での訓練を経て就労継続A型事業所に採用になっている。

●今月のひと口解説●

最低賃金が上がりました

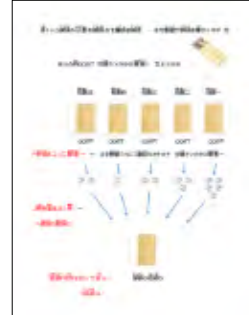
最低賃金は最低賃金法によって労働者の最低限の給料が保証され毎年10月に改定が行なわれる。東京は今年の10月1日より907円となった。地域別に見ると最低額は鳥取、高知、宮崎、沖縄の693円であり214円もの差がある。最低賃金は時給表記されているが日給、週給、月給の人も対象になる。金額をチェックするには対象賃金額を労働時間で割り時間額に換算して比較するとよい。



目指せ!お金の達人!!上手なやりくりを身につけよう

9月19日の生活支援プログラムは金銭管理講座。給料など毎月入ってくるお金と、昼食代や携帯電話料金など出ていく金額を確認した後、家計簿などを使った金銭管理のやり方と、お金にまつわるトラブルから身を守る方法などを勉強した。参加は15人。PASMOなどのプリペイドカードやネットショッピングなどの発達で、最近は現金がなくても商品を手に入れることができるようになった。それに伴い、思わぬトラブルに巻き込まれるケースも出てきた。どの時点で契約が成立するのか。また解約や返品は出来るのか。理解したうえで利用することが必要だ。また、自立するためには、お金の出入りを確認し上手に使う力も身につけなければならない。レシートをとっておき、例えば1週間単位でまとめ、無駄遣いを防ぐなど、やりくりすることが求められる。

◎封筒を利用したかんたん小遣い管理法。必要な金額1週間分をひとつの封筒に入れて、余ったら別の封筒に入れていく



◎「契約は口約束だけでOK?」など身近な問題をクイズで出題。ちょっと難しかったかな

精神障害者雇用企業懇談会を実施!!

9月11日、精神障がい者雇用企業による懇談会を開催した。参加企業は4社。内1社の事例発表による話題提供からスタートし精神障がい者を雇用する上で直面する課題、業務提供に関すること、雇用管理、勤怠管理、支援機関との関わり等について実務者レベルで話し合った。初めは緊張した雰囲気であったが、共通の話題から発展し積極的な意見が交わされた。「各種助成金の申請は手間がかかる割には社内で喜んでくれるのは経理だけ」「IT業界はうつ等を発症する社員が多い」「専門性を持ったスタッフの配置は難しく、症状の軽い人しか受け入れられない」等、日ごろ障がい者雇用担当者としての悩み、今後の課題等が次々に上がり共有、共感、学びの場となった。また支援センターと企業の関わりについても触れた。支援内容は各社、各人によって異なる。必要性に応じた支援を行ない、支援機関は雇用関係を支えているということを確認できた。参加者から出た「病名は関係ない。社員と共に考え成長する。自然な対応を心掛けていきたい」という言葉。こういった思いを共有できる場として今後も第2回、3回と続けていきたい。

